

この地球には、もう一つこんな世界があつたんだ!! 日本には、沖縄というこんな素

中学2年生だった私にとって、青い海、青い空、ジャングルのようないい、うな濃い緑、見るものすべてが新鮮でキレイでした。その撮影の合間に生まれて初めて体験ダイビングをさせてもらつた時は、あまりの海の中の美しさに、ただただ感激と感動でした。

私が初めて沖縄へ来たのは、14歳の時でした。その当時モデルをしていて、南西航空（今のJTA）の機内誌の撮影で西表島に連れて行ってもらつたのが私と沖縄の最初の出会いでした（23年前です！今、この原稿をなんと偶然というか必然とうか、西表島で書いています！）。

10年ほど前、そんな大好きな沖縄の座間味島でダイビングをしていたら、いつもはピンクやブルーのサンゴ礁がその日は辺り一面、真っ白だつたんです。

「今日のサンゴ、なんかキレイ!!」と思つてしまつたくらい、びっくりするほど真っ白で、それが後から聞いたら「白化現象」というサンゴが死んでしまう直前だったんです。それを聞いて本当にショックでした。

それからしばらくして、又同じポイントにダイビングに連れて行ってもらつたら、その白化したサンゴはボロボロに折れ、藻がついて、まわりには魚一匹もいないし、グレーの世界で、まるで墓場のような海でした。あんなにキレイだ

海の中はまるで竜宮城のようであれ、これまたカラフルでかわいい熱帯魚達が泳いでいる。ふだん生

特定非営利活動法人
アクアアラネット会長

タレンツ 田 中 律子



晴らしいところがあるんだ!!

海の中はまるで竜宮城のようであれ、これまたカラフルでかわいい熱帯魚達が泳いでいる。ふだん生

活している陸上とはまったく違ひ、あの無重力でフワフワ浮いている感覺は、とっても気持ち良くて、すべてのストレスが自分の呼吸と

一緒にはき出され、それと同時に海からパワーをもらって、ものすごくポジティブになれる。もうそ

れ以来、私は沖縄とダイビングの虜になつてしましました。

10年ほど前、そんな大好きな沖縄の座間味島でダイビングをしていたら、いつもはピンクやブルーのサンゴ礁がその日は辺り一面、真っ白だつたんです。

「今日のサンゴ、なんかキレイ!!」と思つてしまつたくらい、びっくりするほど真っ白で、それが後から聞いたら「白化現象」というサンゴが死んでしまう直前だったんです。それを聞いて本当にショックでした。

それからしばらくして、又同じポイントにダイビングに連れて行ってもらつたら、その白化したサンゴはボロボロに折れ、藻がついて、まわりには魚一匹もいないし、グレーの世界で、まるで墓場のような海でした。あんなにキレイだ

Series 13
地域の目

「私と沖縄」

そんな時、私の目の前に現れたのが、コーラル親父こと金城浩二さんでした。金城さんは北谷でサンゴの再生、養殖、移植活動を行つていて、私がテレビ番組のリポーターで金城さんの元を訪れたのが、出会いのきっかけでした。

初めてサンゴの移植をやられてもらった時、「こんなことが出来るんだ!!」と目からウロコで、「これだ!!」と思つたんです。私が14歳からダイビングを続けてきたのも、こんなに沖縄が好きなのも、きっとこれをするために、やらなきやならない使命なんだ!!

私がやらなきやならない使命なんだ!!

そんな気持ちから、3年前に「アクアアラネット」を立ち上げ、2年前、私は会長、金城さんは理事長として、サンゴ再生、移植活動をNPO法人として始動することになりました。「アクアアラネット」では、水槽でサンゴを株分けして、サンゴの赤ちゃんを今現在約4万株ほど育てています。3ヶ月ほど水槽で育ててから、北谷沖のポイントの岩盤に水中ドリ

つた海が、こんなに荒れた海になつちゃうなんて!!。これはなんとかしたいけど、でもどうしたらいいんだろう!!

そんな時、私の目の前に現れたのが、コーラル親父こと金城浩二さんでした。金城さんは北谷でサンゴの再生、養殖、移植活動を行つていて、私がテレビ番組のリポーターで金城さんの元を訪れたのが、出会いのきっかけでした。

初めてサンゴの移植をやられてもらった時、「こんなことが出来るんだ!!」と目からウロコで、「これだ!!」と思つたんです。私が14歳からダイビングを続けてきたのも、こんなに沖縄が好きなのも、きっとこれをするために、やらなきやならない使命なんだ!!

そんな気持ちから、3年前に「アクアアラネット」を立ち上げ、2年前、私は会長、金城さんは理事長として、サンゴ再生、移植活動をNPO法人として始動することになりました。「アクアアラネット」では、水槽でサンゴを株分けして、サンゴの赤ちゃんを今現在約4万株ほど育てています。3ヶ月ほど水槽で育ててから、北谷沖のポイントの岩盤に水中ドリ